



舞鶴小だより

平成30年7月4日号 文責 学校長 相河竜治

工夫し心に響いた道徳の授業！

6月27日(水)には、3・5・6学年、29日(金)には1・2・4学年とあおぞら学級・けやき学級の道徳の授業参観を行いました。どの学年も工夫一杯で子どもたちの心に響く、とても充実した道徳の授業となりました。

とても感心したのは、1学年では、わがままなカボチャと周りの生き物の気持ちを視覚的に把握できるよう黒板を工夫していた点、2年生では、1組が自分の良さを考えるために保護者に良いところを手紙に書いてもらい子どもたちに渡した点、2組は自分の良さを花びらにした点、3年生では、良いクラスにするために何が必要か考えるため、失敗した友だちに何と声をかけたらいのか役割演技をしながら考えさせた点、4年生は、1組はきまりを守る大切さを個人で考え、班で話し合い、ホワイトボードで発表した点、2組は10歳までと10歳からの親切を考え、10歳からの親切は自分ではなく相手のことを考え行動することの大切さを考えさせた点、5年生は、きまりを守りづらい状況でもみんなが暮らしやすくなるためにきまりを守ることを考えさせる中で、「考え議論する道徳」をさせた点。6年生はノーベル賞を受賞した大村智先生の4つの教え「とにかく人のためになることをする」「祭な道を行くといい人生にはならない」等から生き方を考えさせた点です。このように、子どもたちに道徳的な心情や実践力を育てるために、様々な手法を取り入れ、教育効果を上げていたと思います。

なお、4年生は、授業が始まる前に体育館で、連合音楽会で発表した合唱と合奏を披露し大好評でした。

その後の学年学級懇談会も皆様のご協力で有意義なものになりました。ありがとうございました。



1年：工夫一杯の黒板の教具



2年：保護者からの手紙をもらう



3年：二人組の役割演技の発表



6年：工夫いっぱいの板書



5年：グループの話し合いを導入



4年：連合音楽会の合奏等発表

前期の教育実習では大きな成果を上げ終了しました！

6月4日(月)から22日(金)までの3週間を山梨大学の学生さん6名が、2・5・6学年で2名ずつ教育実習を行いました。最初は本当に緊張した面持ちで参加していた教育実習生ですが、次第に子どもたちとも仲良くなり、休み時間は一緒に遊ぶ姿が見られるようになり、指導教官の先生方とも打ち解けて指導を受けることができるようになってきました。

私がとても感心したのが、それぞれの学年で真剣に研究授業に取り組み、夜遅くまで準備をして、授業も「主体的対話的で深い学び」になっていたこと。子どもたちや教職員とお別れ会で、教育実習をやり終えた達成感と子どもたちとの別れを惜しんだり指導教官の先生方への感謝の気持ちから全員の実習生が涙を見せていたりしたことです。それは、全員がこの実習に真剣に取り組み、その中で大きな成長をすることができた証だと思います。

教育実習生の中の何人かは、今後も学生教育ボランティアとして本校に関わってくれます。若い学生さんとのふれ合いは子どもたちにとっても印象深く、きっと良い経験になっていることと思います。



1人1人に手作りプレゼントを渡す



子どもたちから教育実習生へエールを

本校でドリームキャンパスを実施しました

6月25日(月)の5・6校時に、体育館で全校児童が参加する中で、甲府市の開府500年記念事業である「こうふドリームキャンパス」を開催し、関東サッカーリーグ1部のブリオベッカ浦安の監督でいらっしゃいます羽中田昌さんにご講演をしていただきました。樋口甲府市長さんもお見えになり、校長室で羽中田さんとお話しいただいたり、講演の前半も一緒に聴いていただいたりしました。

羽中田さんは春日小学校出身で本校の子どもたちの先輩です。小中高校時代のお話や、卒業後のバイク事故やそこから立ち直った話もしていただきました。後半は、監督になるためにバルセロナに行ったときのことを中心にお話していただきました。「最も楽しい人生の生き方、それは夢を持ってその実現のために頑張ること」といったメッセージは、子どもたちが夢を持ち、夢に向かって頑張ることの素晴らしさを感じることができたと思います。この講演会を開催するに当たり、ご講演いただいた羽中田昌さんはもちろん、樋口市長、開府500年事業課の市役所の皆様にも心から感謝申し上げます。

